

気象異変?

コロナ・どい吹く風



梅雨入りの発表も二週間ほど宮城は早すぎたのかも知れません。六月も後半に成つてから、梅雨空の日々が続きはじめました。

騒動の中、気晴らしにと雑木林に足を踏み入れますと、草むらの中はコロナの騒動なんて、全く感じ取れない世界です。背丈を超えるタニウツギの木の梢からは、こぼれるばかりの淡いピンクの花が咲き誇ります。

案内板

夏休み特別・得々コース 7月～8月末まで開催



7月 夏野菜特別ランチ お食事メニュー(湧泉ざるそば) ■夏を装ううつわ展 陶芸得々コース8/31まで 珈琲無料優待券贈呈 窯出し作品即売

8月 秋野菜特別ランチ お食事メニュー(湧泉ざるそば) 陶芸作品お渡し 珈琲無料優待券贈呈

9月 山採りキノコ特別ランチ お食事メニュー(湧泉ざるそば) ■錦秋を彩るうつわ展 名月を愛でる宴企画

10月 お食事メニュー(和風ラーメン) 秋菜の小鉢サービス月間 陶芸作品お渡し 紅葉ランチ企画

夏野菜 販売価格百円



無我久庵の板サンの、この地は大きく息も吸い込めない、この地は早朝から仕込みに駆けつける、朝霧が立ちこめ、野鳥のさえずりもこのほかに響き、新緑のキラキラと輝く絵画の中、そのものです。

手作りの野菜・新鮮野菜・高原野菜の味をお客様に知っていただきたいと始めた、無我久庵入り口の小さな野菜コーナー。どなたかのインターネットの投稿で火が付き、野菜だけが目当ての来店者も増えて参りました。春の雪解けを待つて堆肥を入れ、連日、耕運機で土づくりを汗を流した甲斐があつて、今年の朝採り野菜は大型で美味です。葉物は処分しますが大抵は、葉物は処分しますが大抵は、葉物は処分しますが大抵は、葉物は処分します。

第十二回 会場 グリーンプラザ

陶房ゆとり炉展 涙の中止決定

陶芸教室の生徒さんによる作品展・陶房ゆとり炉展。生徒さんの二年間の製作の集大成ですが、コロナ感染の影響で、東北電力グリーンプラザから開催中止の申し入れがあり、NHK文化センター・仙台リビングとの協議の末、涙を飲んで中止を決定致しました。各地で活動する陶芸家の仲間達も同様で、頑張つて来年は合同コラボ展でも!と気合いを入れてます。

要予約・夏の恒例 陶芸&食事得々体験

「暮らしの中のうつわ」をコンセプトに多数の新作をお見せします。陶芸体験 千五百円 ランチ・ドコース 二千円 (陶芸体験とランチのセット)

ライトコース 千八百円 (陶芸体験とそばのセット)

親子陶芸体験 千八百円 (陶芸体験とそばのセット) 親一名・子ども一名(三千円) 特別ドリンクサービス付き 自由研究で学校に提出の場合 は早めの体験をおすすめします。

カルチャーの日 要予約

水木金・貸し切り 新しい創作活動のお手伝い

藍染・和紙すき・籐工芸・絵画

今年度から無我久庵は営業をチョット変えています。従来は連日食事の提供と並行して、陶芸体験もお引き受けしておりました。只今は、水木金の三日間はカルチャー体験の日となっております。ランチとの組み合わせも自由です。お問い合わせください。

四季草

二十一日、しばらくぶりの日食でした。陽が欠ける様子はぼんやり眺めているだけでも、神聖でどこか神秘的です。古代、我が国の祖先は太陽が欠けていく様子を、神が岩穴に隠れたと譬え、天岩戸の神話をつくりあげました。なんともロマンチックな話です。自称・都会のマガギが学生の頃、太陽がすっかり隠れる皆既日食を、日本アルプスの山頂で見つめたことがあります。皆既になるや、あたり一面は薄暗くなり、残雪を戴く山の端は異様な色に包まれました。その時隠れた太陽の周囲から煌煌とした爆発物が立ちこめてくるのを快晴の高山のサミットから目撃しました。立ちこめていた神秘的な炎を取り巻く淡く輝く層をコロナと呼ぶことを、下山してから知りました。

太陽の温度は六千度、そこを遠く取り囲むコロナの温度は、飛び抜けた桁違いの数百万度。冷たいストープの上でヤカンの熱湯がチンチンと沸いている不思議さです。

無我久庵の離れは三年前に新築しました。夫婦共通の趣味の、骨董品の陳列部屋と、山麓の地であじわう抹茶の部屋・落柿苔をついでに設けました。厳冬の茶室の暖房にと、建築当時、小型で最も高性能のエアコンを探してもらい、設置したのが、コロナ・エアコン。コロナとは王冠と訳されます。飛び抜けたものの例えの称号なのかも知れません。

自粛・自粛の三ヶ月。不景気・不景気で世の中、飛び抜けた我慢・我慢の生活を強いられ、ストレスばらして、マガギは連日のあおり酒でした。内閣は存続の危機。オリンピックは開催の危機。経済は立て直しの危機。

コロナから伝わる意味は、もう素晴らしいのとどこか、悪魔のような響きが伝わります。若者の使う「ヤバイ」はいまやダメでも、ステキでも使われます。「適当」もやダメです。実に良いと使うのは良い意味、余り良くないとの悪い意味でも現在は使われます。マガギが今使っている「良い意味・悪い意味」も使われ方が変遷しました。たとえば、この店は良い意味で安い。あの店は悪い意味でチョットな。なかなか奥深い世界です。



ゆとり炉無我久庵 泉ヶ岳山麓 陶芸教室ゆとり炉 長命ヶ丘 泉ヶ岳窯ゆとり炉 泉ヶ岳窯宮